

<資料>

長野県産シダ植物の新産地 (3)

上野勝典* 上野由貴枝*

New localities of some pteridophytes in Nagano Prefecture (3)

Katsunori UENO and Yukie UENO

1 はじめに

既存の文献(「松本市史 第一巻自然編」,「塩尻市誌 第一巻自然」,「長野県植物誌」,「CD-ROM 長野県植物誌資料集」,「長野県版レッドデータブック」)に分布情報の記載が無いが,または分布上注目されるシダ植物について,前報(上野・上野2004, 2005)に引き続いて報告する。特に希少と思われる種については,自生地保護のため地区名,標高等の情報を割愛した。本報告中の標本番号の記載が無いものについては,目視および写真による記録である。種の同定においては「日本の野生植物 シダ」と「信州のシダ」を主に参考にした。一部の標本については大塚孝一氏に同定をしていただいた。なお,標本の採集者は上野勝典・上野由貴枝で,標本は長野県環境保全研究所標本庫(NAC)へ納めた。

2 松本市新産,または注目されるシダ

(1) エゾヒメクラマゴケ(イワヒバ科)

Selaginella helvetica

入山辺 2005年9月10日 NAC142763

やや湿った岩場に多く着生するように生育していた。乗鞍高原など標高の高い所のほか,泰阜村の天竜川周辺など標高の低い所でも見ることができる。似た種にタチヒメクラマゴケやヤマクラマゴケがあるが,前者は長野県でははっきりとした記録がなく,後者は極めて稀である。

(2) イワヒメワラビ(コバノイシガマ科)

Hypolepis punctata

中山 700m 2005年9月22日 NAC142754

八景山(旧梓川村) 760m 2005年8月28日

NAC142761

中山ではスギ林下のやや日当たりの良い場所に,数株が生育していた。一方の旧梓川村では,スギ林下に数10株が旺盛に生育していた。本種は暖地の比較的大型のシダで,「信州の珍しい植物」(奥原著1992)に坂井村のイワヒメワラビが県中部ではめずらしいとして紹介されているが,以下に紹介するように松本市内2ヶ所のほか,塩尻市でも今回確認することができた。近年になって県中部での生育範囲を広げていると考えられる。

(3) クモイワトラノオ(チャセンシダ科)

Asplenium × akaishiense

入山辺 2005年9月10日 NAC142755, NAC142764

クモノスシダやイワトラノオが近くに多数混生していたが,それらとは少し離れたやや湿き気味のところに一株のみが孤立して生育していた。周囲の岩場を探したところ他に2株がお互いに離れて見つかった。本種はクモノスシダとイワトラノオの雑種とされ,クモノスシダが切れ込んだ形となっている。クモノスシダとコバノヒノキシダとの雑種のイセザキトラノオも本種と形態が非常に似ているが,本種は葉の色がやや黄緑色,葉の出方の直立性が弱いなどの違いがある(大塚 1987)。松本市ではコバノヒノキシダは報告されていない。クモノスシダとイワトラノオは混生することが良くあるにもかかわらず,雑種をつくることが稀で長野県の希少雑種とされている。

(4) ヤマドリトラノオ(チャセンシダ科)

Asplenium × kobayashii

入山辺 2005年9月24日 NAC142756

上記クモイワトラノオと少し離れたところに一株のみが生育していた。本種はクモノスシダとトラノオシダの雑種ではあるが,自身の胞子でも増えることから独立した種として扱うこともある(神奈川県植物調査

* 上野勝典・上野由貴枝 〒399-0011 松本市寿北2-2-38

会 2001)。クモイワトラノオやイセザキトラノオに似ているが、最下羽片が扇状に軸に延着する点とくに異なる(大塚 1987)。本種は長野県の希少雑種とされるとともに、国の絶滅危惧ⅠA類に分類されている。

- (5) ヤマイタチシダ(オシダ科) *Dryopteris bissetiana*
中山 700m 2005年9月22日

スギ林下に一株のみが生育しているのを見つけた。暖地性の傾向があり、南部を中心に分布し、近くでは塩尻市の奈良井川沿いには多数観察されるものの、松本市での記録はなかった。オオイタチシダによく似ているが、やや小型で、葉柄から中軸にかけて軸が裸出しなほど鱗片が密生し、羽片の先が曲がる傾向があり、小羽片の縁が巻き込んで葉が厚く見えるなどの特徴がある。

- (6) チチブイノデ(オシダ科) *Polystichum × titibuense*
中山 700m 2005年9月23日 NAC1427 NAC142759

上記、ヤマイタチシダ、イワヒメワラビと同じスギ林下に数株が生育していた。本種はホソイノデとイワシロイノデの雑種で、イワシロイノデに似ているが、最下羽片がやや縮小し、孢子囊群がやや軸寄りであり、大きな点などホソイノデの特徴を持っている。この林は湿度が高く、松本市内では暖地性のシダを含め種類も個体数も多い。ここで観察されたシダは以下のとおりである。

エゾフユノハナワラビ、ナツノハナワラビ、ゼンマイ、オウレンシダ、イワヒメワラビ、ワラビ、クジャクシダ、イワガネゼンマイ、トラノオシダ、コタニワタリ、シシガシラ、オシダ、オクマワラビ、ミヤマクマワラビ、ベニシダ、ホソバナライシダ、ヤマヤブソテツ、サイゴクイノデ、ツヤナシイノデ、サカゲイノデ、チチブイノデ、ホソイノデ、リョウメンシダ、シノブカグマ、ジュウモンジシダ、オオクジャクシダ、ヤマイタチシダ、ハリガネワラビ、コウヤワラビ、ヘビノネゴザ、イヌワラビ、ヤマイヌワラビ、キヨタキシダ、ハクモウイノデ、ホソバシケシダ、シケシダ、オシダグジテンダ

3 塩尻市新産、または注目されるシダ

- (1) オオハナワラビ(ハナヤスリ科)

Botrychium japonicum

日出塩 800m 2005年11月20日 NAC142748

奈良井川沿いのスギ林下にアカハナワラビにまじって点々と生育していた。オオハナワラビは暖地性のシ

ダで、県南部を中心に分布している。鋸歯がするどい点でアカハナワラビに似ているが、冬でも葉が赤くならず緑色であること、より大きく、葉が横に広がるように展開すること、孢子の表面に突起があることなどから区別できる。県絶滅危惧Ⅱ類。

- (2) コバノイシカグマ(コバノイシカグマ科)

Dennstaedtia scabra

釜の沢 890m 2005年8月22日 NAC142760

溪流沿いの崖にナンゴクナライシダに混じって数株が見られた。本種は暖地性のシダで、木曽谷を中心に記録があることから、中部では稀と思われる。

- (3) イワヒメワラビ(コバノイシカグマ科)

Hypolepis punctata

釜の沢 890m 2005年11月6日 NAC142746

溪流沿いの比較的に日当たりの良い湿気味の場所に数株が見られた。

- (4) イノデ(オシダ科) *Polystichum polyblepharum*

釜の沢 890m 2005年11月6日 NAC142745

一株のみが溪流横に生育していた。まだ株自体が小さく、ようやく孢子嚢をつけたばかりのようで、おそらく、近年孢子によって運ばれて発芽したものと予想している。イノデは暖地性のシダであるが、近くでは波田町での記録がある。

- (5) アカメイノデ(オシダ科)

Polystichum × kurokawae

上西条 800m 2005年11月19日 NAC142740, NAC142741

塩尻市ではカタイノデが数箇所で見つかっており、そのうちの1ヶ所でツヤナシイノデとの雑種のアカメイノデが見られた。形態はツヤナシイノデとカタイノデの中間的なもの、ツヤナシイノデに似ているもの、カタイノデに似ているもの等があるが、鱗片はカタイノデのように黒っぽい色がはっきりと出ている。カタイノデは比較的雑種を作りやすいとされるが、長野県ではカタイノデそのものが非常に少ないことから、その雑種でこれまで報告されているものは、イノデモドキとの雑種のカタイノデモドキのみである(大塚 1999)。今回、波田町とあわせて塩尻市でアカメイノデを長野県ではじめて確認した。長野県新産。

なお、当地はシダが多く、暖地性のシダや好石灰岩性のシダなどが見られ興味深い場所なので、以下に観察されたシダを記す。

クラマゴケ、アカハナワラビ、エゾフユノハナワラビ、ナツノハナワラビ、ワラビ、オウレンシダ、イヌ

シダ、クジャクシダ、イワガネゼンマイ、クモノスシダ、コタニワタリ、イチョウシダ、トラノオシダ、シシガシラ、オシダ、ツヤナシイノデ、サカゲイノデ、ホソイノデ、イノデモドキ、カタイノデ、アカメイノデ、ミヤマクマワラビ、クマワラビ、オクマワラビ、ミヤマイトチシダ、ベニシダ、ツルデンド、ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ホソバナライシダ、ミサキカグマ、リョウメンシダ、ジュウモンジシダ、ハリガネワラビ、ヤワラシダ、イヌガンソク、ヘビノネゴザ、ヤマイヌワラビ、スリワラビ、イヌワラビ、キヨタキシダ、オオヒメワラビ、ホソバシケシダ、ハクモウイノデ、オシダグジデンド

(6) イノウエシダ (オシダ科)

Dryopteris dickinsii × *D. crassirhizoma*

日出塩 800m 2005年11月20日 NAC142751

オオクジャクシダの群生の中に、一株のみ切れ込みが大きく、胞子嚢群がやや軸寄りの個体があり、大塚孝一氏によりイノウエシダ (オオクジャクシダとオシダの雑種) と同定された。雑種のためか、分布情報がほとんど無いが、白馬村、中条村での記録がある。

(7) ヒロハイヌワラビ (イワデンド科)

Athyrium wardii

日出塩 800m 2005年11月20日 NAC142750

奈良井川沿いのスギ林下に一株のみが見られた。暖地性のシダで県中部での報告はほとんど無かった。ヤマイヌワラビによく似ているが、羽片の先が尾状になり、葉がやや厚く、小羽片の耳があまりはつきりせず、羽片裏の軸に微毛があるなどの特徴がある。

(8) ハコネシケチシダ (イワデンド科)

Cornopteris christenseniana

日出塩 900m 2005年11月20日 NAC142752

奈良井川の支流の溪流を少し入ったところの杉林に数株がまとまって生育していた。シケチシダとイッポンワラビの中間的な形をしており、シケチシダが1回余計に切れ込んだような形である。特に胞子嚢群の形は、細長いシケチシダと丸形のイッポンワラビの中間的である。夏緑性のシダですでに枯れかけていたが、生育はかなり良好であった。近くでは辰野町 (牛首峠) での記録がある。

(9) ミツデウラボシ (ウラボシ科)

Crypsinus hastatus.

日出塩 800m 2006年1月22日

奈良井川沿いの岩場の割れ目に少数のミツデウラボシが付着していた。ミツデウラボシは暖地性とされる

が、県北部や中部でも見られ、松本市内でも近年見つかっている (上野・上野 2004)。近くでは旧槽川村のやはり奈良井川沿いで観察している。

(10) その他

前報において新産としたシダや、これまで1ヶ所では産地が知られていなかったもので、新たに他の地区で見つかったものを以下に列挙する。

チチブホラゴケ (コケシノブ科)

Crepidomanes schmidtianum

日出塩 900m 2005年11月20日 NAC142749

チチブホラゴケは塩尻市では釜の沢で点々と見られるが、新たに奈良井川沿いでも見つかったので報告する。溪流脇の岩場に1m四方程度の群落が見られた。県絶滅危惧ⅠB類。

カタイノデ (オシダ科) *Polystichum makinoi*

釜の沢 890m 2005年11月6日 NAC142743

上西条 800m 2005年11月13日 NAC142744

本種は暖地性のシダで、前報で塩尻市尾沢産を報告しているが、さらに2ヶ所で自生が見つかった。特に上西条では10株近くが見られ、上記のように雑種のアカメイノデも観察された。釜の沢では1株のみであった。釜の沢では1年前に観察したときにはまだ胞子葉をつけていなかったのが、今年になって成長して胞子葉をつけるようになっていた。県絶滅危惧ⅠB類。

イノデモドキ (オシダ科) *Polystichum tagawanum*

日出塩 900m 2005年11月20日

上西条 800m 2005年11月19日 NAC142742

前報で塩尻市釜の沢産を報告したが、今回さらに2ヶ所で生育しているのを見つけた。特に奈良井川沿いの自生地では10株程度がまとまって生育していた。オオクジャクシダ (オシダ科) *Dryopteris dickinsii*

日出塩 800m 2005年11月20日

前報で塩尻市尾沢で産することを報告をしたが、奈良井川沿いのスギ林下でも10株程度が旺盛に生育していた。松本市でも複数の場所で本種が見られ、近年、県中部でも見られるようになったようである。

4 茅野市新産、または注目されるシダ

(1) ミヤマハナワラビ (ハナヤスリ科)

Botrychium lanceolatum 写真1

八ヶ岳 2005年7月22日

本種は長野県では北アルプスと南アルプスのみでわずかに記録があるものの、八ヶ岳での記録はなかった。今回見つけた場所は、亜高山帯の針葉樹林下で、通常



写真1 ミヤマハナワラビ 茅野市 2005年7月22日

本種の自生環境は高山帯の日当たりの良い草地とされる点とも異なっており、注目される。全国的には極めて個体数が少ないことが指摘されており、当地でも限られた地域にわずか10株程度しか確認できなかった。佐橋紀男氏に写真により確認いただいたところ、ホソバミヤマハナワラビ(佐橋 1983)である可能性を指摘されたが、DNAや胞子の大きさを確認する必要があるとのことであった。現地が国定公園内であり希少植物であることから標本の採集は行わなかった。本種は県の絶滅危惧ⅠA類であるとともに、国の絶滅危惧ⅠA類に分類される。

(2) ニオイシダ (オシダ科)

Dryopteris fragrans var. *remotiuscula* 写真2

ハケ岳 2005年7月22日

比較的日当たりのよい崖の岩場に3株がまとまって生育していた。ニオイシダはハケ岳では原村での記録があるが、茅野市における記録はなかった。過去に北海道の知床で数回見たことがある。海外のものは香りがあるものの国内のものは香りが少ないと図鑑にはあるが、わずかに軸付近から香りがした。ミヤマハワラビと同様の理由で標本の採集は行わなかった。県絶滅危惧ⅠA類。



写真2 ニオイシダ 茅野市 2004年7月22日

5 波田町新産、または注目されるシダ

(1) カタイノデ (オシダ科) *Polystichum makinoi*

前淵 800m 2005年8月15日 NAC142737

渓流脇のスギ林斜面に数株が生育していた。暖地性のシダだが、最近、塩尻市でも数箇所で見つかり、生育の状況からここ10年くらいのうちに急速に広がっているように思われる。県絶滅危惧ⅠB類。

(2) アカメイノデ (オシダ科)

Polystichum × *kurokawae*

前淵 800m 2005年8月15日 NAC142738

上記、カタイノデとともに2, 3株が生育していた。羽片の形状はツヤナシノデによく似ているが、やや葉面の色に艶があり、黒い鱗片が混じっている。上記塩尻市とともに県内で初めて見つかった。長野県新産。

6 阿南町新産、または注目されるシダ

(1) オクタマシダ (チャセンシダ科)

Asplenium pseudowilfordii

北條 2005年10月29日 NAC142758

天竜川沿いの岩場に数株が見つかった。近くでは天龍村でもシシランの群生の中に本種を観察している。暖地性のシダで県南部に分布する。県絶滅危惧ⅠB類。

7 天龍村新産、または注目されるシダ

(1) ハイホラゴケ (コケシノブ科)

Crepidomanes birmanicum

平岡 350m 2005年11月26日 NAC142753

スギ林内の急な岩場の割れ目に1m四方程度の小群落を作っていた。生育状況は良好であった。アオホラゴケに似ているが、偽脈は無い。天龍村では満島～鶯巣に記録があるが、長野県ではめずらしいので、天



写真3 オオバノハチジョウシダ 天龍村 2005年11月26日

龍村内の新産地として報告することとした。県絶滅危惧ⅠA類。

(2) オオバノハチジョウシダ (イノモトソウ科)

Pteris excelsa 写真3

平岡 760m 2005年11月26日

急峻なスギ林の斜面にわずか一株のみが生育しているのを見つけた。3つほど羽片が出ていたが、ほとんどが鹿か虫に食べられたようで軸のみが残り、1枚の羽片だけがかろうじて残っていた。大きくならないうちは、写真のように側羽片内側で不規則に小羽片が少なくなつて、ややアマクサシダのような形態になることがあり、オオバノアマクサシダと呼ばれることもあるようである。本種は暖地性で、関東では比較的良好に見かける大型のシダだが、長野県では小谷村と泰阜村でのみ記録がある。生育状況があまり良くなく、羽片が1枚だけだったため、標本の採集は行わなかった。県絶滅危惧ⅠB類。

(3) オニヤブソテツ (オシダ科)

Cryptomium falcatum 写真4

為栗 300m 2005年9月18日 NAC142765

為栗駅近くの石積みした崖の壁に一株のみが生育しているのを見つけた。長野県では過去にはっきりとした記録がなく、自生では初めて見つかったものと思われるものの、大塚孝一氏より、「上田市白蛇神社の石垣には、まったくの自然繁殖かあるいは植栽されたものが繁殖したのか不明であるが、自生状態で多数繁殖している個体を観察している」と連絡いただいた。本種は関東では海岸近くのほか、駅や民家のコンクリート壁などにもよく見られる。今回見いだした植物は、羽片が細長く、基部が広いくさび形となることから、4倍体のナガバヤブソテツと思われるが、ここではオニヤブソテツとした。長野県新産。



写真4 オニヤブソテツ 天龍村 2005年9月18日

謝 辞

シダ植物の同定、ならびに本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただいた長野県環境保全研究所の大塚孝一氏に感謝の意を表します。

引用文献

- 伊藤洋編 (1998) 埼玉県植物誌. 埼玉県教育委員会
 上野勝典・上野由貴枝 (2004) 長野県産シダ植物の新産地. 長野県植物研究会誌, 37: 45-48.
 上野勝典・上野由貴枝 (2005) 長野県産シダ植物の新産地(2). 長野県植物研究会誌, 38: 133-136.
 岩槻邦男編 (1992) 日本の野生植物 シダ. 平凡社.
 大塚孝一 (1987) 長野県におけるチャセンシダ属種間雑種の産地及びその識別について. 長野県植物研究会誌, 20: 122-123.
 大塚孝一 (1999) 長野県のシダ植物雑記(8). 長野県植物研究会誌, 32: 52-55.
 大塚孝一 (2004) 信州のシダ. ほおずき書籍
 奥原弘人 (1992) 信州の珍しい植物. 信濃毎日新聞社
 神奈川県植物調査会編 (2001) 神奈川県植物誌. 神奈川県立生命の星・地球博物館
 佐橋紀男 (1983) 日本産ヒメハナワラビ属の分布について. 植物研究雑誌 Vol.58, No.4: 109-112
 塩尻市誌編纂委員会 (1991) 塩尻市誌 第一巻 自然
 清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社
 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック維管束植物編
 長野県植物誌資料集作成委員会 (2005) CD-ROM 長野県植物誌資料集 (普及版)
 松本市 (1996) 松本市史 第一巻 自然編
 矢原徹一監修 (2003) 絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ. 山と溪谷社